

2019年8月		
筆者	所属	千葉県農林総合研究センター 野菜研究室
	職名及び氏名	主任上席研究員 矢内 浩二
題名	冬どりコマツナの優良品種の選定	

千葉県のコマツナは、平成29年産の産出額が18億円と全国第6位で、作付面積（H29年 346ha）はこの10年間大きな変動はなく、安定している重要な品目です。コマツナは周年を通じて変わらない需要があり、冬でも露地栽培できる、耐寒性が強く気候変動の影響を受けにくい品種が求められています。

そこで、冬どり栽培における優良品種を選定するため、平成29年度に第65回千葉県野菜品種審査会（主催：千葉県、（一社）日本種苗協会千葉県支部、（公社）千葉県園芸協会）として18品種を栽培し、収量性、低温伸長性、外観品質を調査したのでその結果を紹介します。

11月7日に播種し、11月中は概ね順調に生育しましたが、12月の低温と乾燥により生育は極めて緩慢になりました。そこで、生育促進のため1月中旬から農ビのトンネル被覆による保温を行いました。

2月7日に外観品質や収量性を審査した結果、上位5品種を入賞とし、1位は「冬のエース3号」（トキタ種苗（株））で、以下、「冬里」（（株）武蔵野種苗園）、「春のセンバツ2号」（トキタ種苗（株））、「雪美坂」（（株）日本農林社）、「はまつづき」（（株）サカタのタネ）の順でした。

平年より平均気温が低い条件でしたが、1位の「冬のエース3号」及び2位の「冬里」は草丈が20cmを超え、低温伸長性に優れていました。株新鮮重は「冬里」が最も重く、「春のセンバツ2号」と「はまつづき」が続きました。葉色は、「春のセンバツ2号」及び「雪美坂」が濃く、いずれの品種も、葉のカップリングはほとんど見られず、変形葉や黄化葉は見られませんでした。これらの品種を活用した冬場の安定生産が期待されます。



写真 第1位を受賞した 「冬のエース3号」